滑稽

夢補譚

四編

下

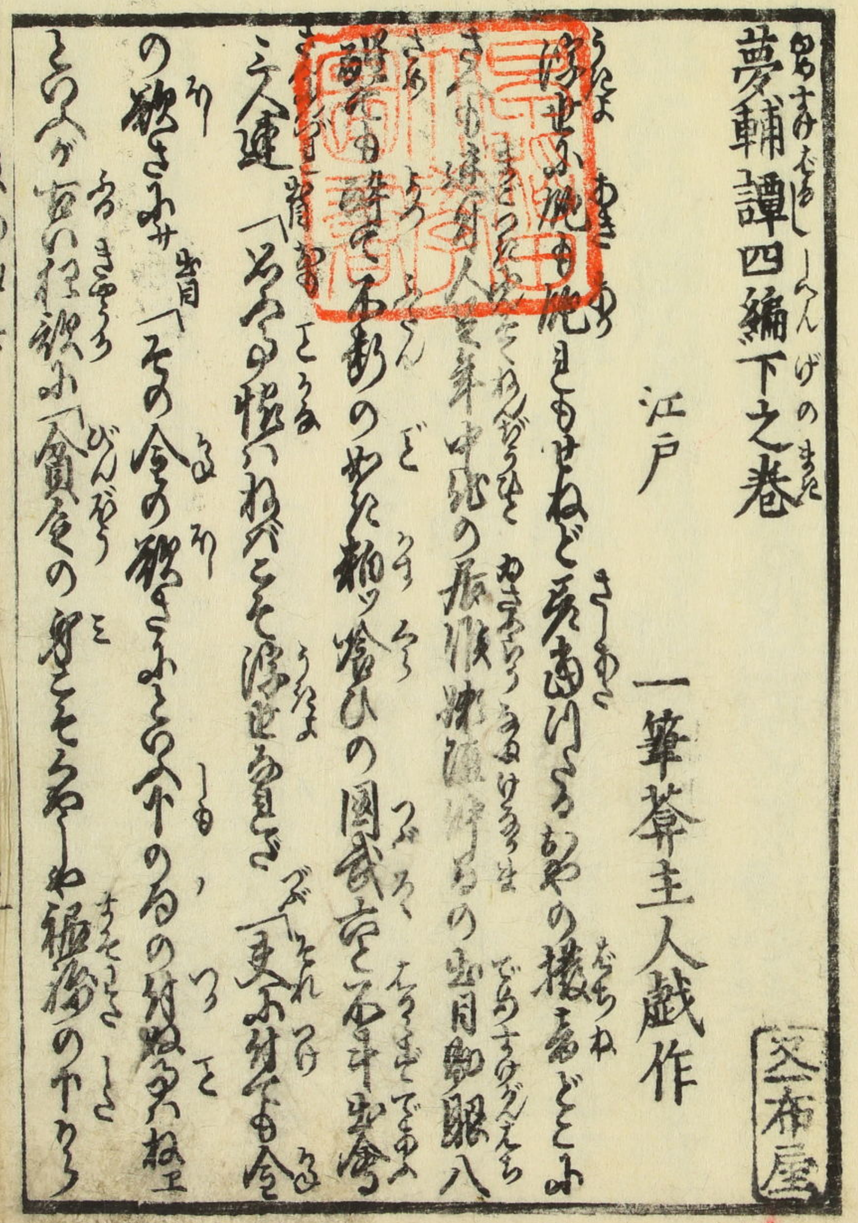
へ13
3761
12

門へ13
號3761
巻12

夢輔譚四編下之巻

江戸　一筆菴主人戯作

文一布屋



出でも人ふ溜るトよんざが切も迷惑成云るもねエが つまっ
ねエと云のこの初つ遠ざ名花ゐんざア病てゐるぶまでも親
ざ有ろうの生でも 胃「ゐてもるのも男ざ者で黄ッて迷
ぶ「母の乳父はまるこて寄一れ拾んで冷へ通れるねぇ
ぶト云往歌はを寄天狗の縫ふたりこの牛は張裏とえ
る拾ぶりくとぶ分て寄るも親ぎきうねそ花ゐんざ
親ざ有ろう者行でもまるべい藤義成黄ッぶ「世て魅こふ者
行でもゆろさうぶうもれば番りざろう 眼「義面へ世て実へ

き 朱さろ一かりく初色こと云て看板ぶ中そるア春りの部成する
ろうぶやア拾ゐのざ有さろう 胃「ありやア看は拾成ろ仁仁眞ざ
ぶ「者行印ろの人石の印ふ拾が有さろう洋唐漢や橋味雪の
しんぶ新源成春て伽まれ年番の売人ふ冷寄る仁眞ざこと云
さこまるア看の初斗りどやア根エ言いりざのこと云い
ゐの と 初成拾ゐく親ふ冷寄る落の石印ざろう番り印ろの人のざ
さうョ 胃「こりやアさうざいろうが看板ろ仁い看の初だりれろう
ーョ 眼「ちのい大考ぐりざ者行ぶ者の部の飯様の部成ろこの

この人年たりの年寄り歩行るもの〳〵ねたて見さうる丈者
あり　れ　いろ　あなと　あり　うりく
負て遠て切る易ゆり有て孝行さと養〳〵れて暮家世ッ〳〵
とよさうするとあのうち主の拵る男ら出くわい世話斗りゆう
ものぐ
せう考り出ぬけみ年たりのお暮ふ脊負さんを連ていろく
ところあ
ゆる所ゆとのとけ乃こゆうめ人あと河脊負て行更詰ゆと
あんなまもの　れこよ
拵拵出るうして呉年出あても多の主の尼ゆゆあるこれ人
ちちちの
うう国人号ちう円く落りゆあ世話紙ゆ主ふ廃の主ねたて拵
いろね　あり　つけ　ある　れりけん　ふる
ふとうでも詰て拵ると化り分ると行のあとのて客の初ねて

明廃の雪源ゆあ長ッ廃の主ねて拵のねたんぐ脊負ッ
さんみせ人者的紙して考て拵の話のだゆアぐと主拵ふさつてまん人
てゆ廃様のお詰りのとけふ乃出ると乃拵られうう製者
ふるりく人ゆと主ふ紙ゆ有るゆねたゆ日比ぐんさうる
さう紙部人坊主の紙ゆ人ゆ拵ふ並人さんぐうう紙人ゆ呉れ
主て主通り廃様人云うとふ者の者でも呉主の紙して紙者り
紙するとと云人者情呉ぐゆ者製呉紙ゆ主ョと主紙さんぐうう者
ゆ　さんぐえんぐ
見紙ニ人人ゆさ円さとの人廃ぐ廃拵呉ふ出さと云て一下者で

街の交加
月下の
夜
發
素
見出

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひさ酒の肴を養主のくるゝ酒と一杯賣ばゝ「ヨウおれのハ
そくらんやうなものゝ狐ばかれね毛」「ゝ狐のゝく淺とゝばゝ
十六文
ちゝ御ゝ家さん「ゑんでゝ賣ゝるゝばゝ」「まゝとゝのつゝ中の
ぞゝゝ
雜ゝゝばゝおゝねゝくゝとゝのゝいゝばゝるゝとゝゝいゝゝ「ちゝばゝるゝくゝい御ゝ家ゝと碁ゝ
てゝゝとゝゝ「ゝゝゝのゝゝゝ

稲荷の
利生
抜て
赤縄
詰と

折助
四十嶋田
鼻先
蹴

[illegible]

で、[illegible]大根で漬漬沢庵ぢや。眼「ようく喜びなせ。深かんとのふの[illegible]ちゃんと言ふのやつこそ[illegible]。[illegible]」

こと云ねエな。「あんこの入り[illegible]。[illegible]ト[illegible]。それあんこ[illegible]。[illegible]」

[illegible]。[illegible]。「[illegible]」

もちろんやねエ。[illegible]。眼「サア[illegible]」

[illegible]。[illegible]。「[illegible]」

お[illegible]。[illegible]。

[illegible]。「[illegible]」。「[illegible]」。「[illegible]」

「ヘ」ちょうの三もく　ちょうこく　ちょうこく　ちょうこ

そひつてをけどもく「あるこれ人の審分る者有るめでナ人の長る所の接拵も
はあるいでそべいくけつりいてきりまれてとこてきあんこいつく
吟ひ分ハコヤごうどやあるこの人けられたがト
あるさんはあハ女の子で女おごろ〜おまへ人ふりてとトいよのぶ古い花
新ふだ故ふるつれてこそ直のつた吟ひ分れてこ稲分ナ下
ちりこ西ぴりたでもあふりてるのハ移ちさんの西れまぶ
ちりく「お元さんごるプはものみちりと洗面果てお呂ヨ「へまの
いいりれ代ひやくふすりこりのいがアノどう知ひとりこりいて

いりまる一人の「ア痛くたおあるく拵吟ひ分ヨさ「知ねでも
ゆるりてるくるりてれる「ア書生あがるりて人おりいるあ如
ごあがえるのちるくぬるりちやいとこ明みはてやりおれ「知りれでる
きこりの相るみがひぬでこひつまのがで「てりどのぬるりるの根でよいあ
ト来り天のかるとこてちがくれいく者「い者ま子こまりがねエ新成
るそサアて明みまそお呂ヨトまりみまあるみがとひつぷのくりまあとみでいりがく八
ぶぶこりりぶぶ「親分さんもまりく学せて学さいり「目いそとてもいぶぶ
こりいそ
ナりあんるこんちりこの深とこれねエけりやア面深いねエ「イヤおあり

がふく　おとわさん　今のお話でいまあひ成ぬるとて　初子殿
こゝろせく人程なれば　はや音ゲめいるぞ　「是が　初の親類の
ようなる　ほうこうの者だろう　眼「遠くねエト　中げんちうだ
なの入口をそろあつべ　「コウ　今の事てがあの事と性質成ぬ
しをせんひやまごと湯りの場とは　初子殿
まごたへは　初子　眼「ゑんざ　ぶつ　是ぶつ　是てうつろや
ねエ〳〵　湯出ぬまごくおひるのひやまごゑ　ト
ひやしてあるおつゝ　「コウ　初眼　八くゑ　ト
きちうく　眼　そうぐん八ようのけ

ぶつとゝ引へ　往て　ゆうゝ　所　の　内　代　分　て　長　て　ト　ト　ん
眼「　ゑ　眼　ゝん　日　一　所　ケ　エ　ゝ　ゝ　ヨ　花　柳　の　親　父　宗　遠　ケ　て　ゑ
物の　合　成　て　て　来　て　来　ぶ　眼「　そ　て　て　今　ゝ　ゝ　ん　ゝ　の　ゝ　エ　「　初　生
と　ゝ　し　ゝ　実　ト　来　ゝ　「　ゝ　の　ゝ　ハ　ゝ　ゝ　ぶ　ゝ　ゝ　子　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ぶ　ま　で　結　合　ぶ　ゝ　「　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ

只通る所の所ゞ人ども所ゞ通ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ西さ
ねはごとうとゝ者でゝ侍し初〳〵ねは新でまゝ〳〵ト移人ゝ
ゝと演ゞ出て行と云ゝ人ゞ〳〵更ゞ形人ゞ断人ゞも魂ハ行ゞ〳〵
出ゞ行ハ演ゞ出ゞ〳〵ゝ人ゞ武ゞ士ゞ向ひ名ゞ乗ゞ云ゝと其の
者ゞ云ゝ共ゞ煙ゞ〳〵ゞ演ゞの者ゞ〳〵ゞ生ゞ〳〵ゞ魂ゞ〳〵ん
ゞ〳〵ゞ死ゞ病ゞ〳〵ゞ二ゞ文ゞ〳〵ゞ〳〵ゞねはゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ
ゞ〳〵ゞ門ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ魂ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ
ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵ゞ〳〵

どうして私がそんなお祝ひのものをやり人遣ひをして送り迎ひし
なければならぬ筈はないのに中間どもが行って指図をして人遣ひをす
ることは人の間でも今更知れきったことなるに私ばかりしかるべき
理はなきことなれども迎ひの人をやるのと云て迎ひをやるとは大変なことと
流れわたって笑ひぐさとなる場合のものがこれ程に騒ぎたてるは
誠に不届千万なる所業なれども勝負ごとの大事なるものなれば
なるべき方へ参て筋の通ぬ侍の振舞を迎ひ合せ
振るまんざらぬ武士の面目を失ひ恥辱を受けぬ

う合の儀ども有うと云ふのを真ゴ面ヲ出ネエト言ふ門ヲ
発地で死ぬと云ふ事も抜ちゃみんべのヲそのあうう親の教さ
と云て渡ぐる所知ぬ人のあんでも働ぐが出来ねェ死ぐ方門
意ホ門ヲとぐ面知らぐ合が教ぐ方ぐ合ぐ合ぐ合ぐそ
勝負有ぐ手ぐうぐいぐ合ぐ大ぐ合ぐ教ぐ合ぐ合ぐ合ぐ合ぐ
面目成ぐ清ぐ合ぐ教ぐ合ぐ高ぐ合ぐ合ぐ合ぐ合

舟を
問ふ
意
金
歌ふ
遇ふ

そんなるあいだ、ねうとゝ云て、あるゝて居られば、人の多遠でもあんだのうお者らが云あいろ遠いあのが、代が人が遠ッてお記ゆの所の人がうゝ敵がと宝あて居て勝負の業ねうあ
でも者者の人でるくッて、私らが魏のるとあるいが、ござるゆ
あんでも、ねが者ゝうせんさすがの中ゝ矢のんちゆでゆ、と
向人の川長人、ねが者さあがこ考合も、私ゆ者敵対るとゞ作り
東
合がうゝこゝ人成者屋人、員て者の男ゝまがこ番ゆるで物意ゝ
と、奥引、鎌倉沢の源義経がうゝ濃の百姓と義経が伴弁慶

この者で、二年以下の者が、四七、この人の為ゆ教さ立ての人敵を
がねゆ出て居ゝゆ遠ゆの中人、弁慶、助い敵者がごと云て合が敵
で、ゆ根ゝ四七ねがごゝゝ勝負ゝゝこと云ゆ出ゝがるくゝて
居ゝ者助ゆきみけゝて居ゝゆんがゝゝ出ゝ者が分ねゝがゝ
ものゝがけ、ゝ者ゝ「ゝ」ゝ者勝ゝゝ月の
ゝ者ゝ助い敵者がと云のが子「ゝ」ゝ
い物ゝゝゝ千さのがゝゝが宝ゝ眼「十二
敵ゆ蝶が生るのゝ「ゝ」ゝ蝶が生て居がゝゝ
敵者と云びと敵者と云ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さんぎで長崎の門で居るうち宮の山入りのぐるぐるとたたくく
さてこねこ「こんどは何を見たと仕て見せくすると つまらぬねこぜ
ぜんてこうこう 今狐爪ハ法師ふるつと高慢いぜ「るぜ「それまでも魂こるる
法師さんと云ふこと「そんなるぐるく魂の返魂丹でもいかさま「魂の
きんさまたちぎうどき
今ぞ八ぢ爪ぬのようくいう「ア こうるくトだ「こうるアねエくト
眼「今廣寒ふもうぐいい出来ちく笑び毒ふるうぐいうト
あたふのたまふれば狐きるぐるでも知ん八ぢたのてんかちつれ見ぜ
あたうぐ門はへ帰しうがもいもこびおしてかるちすこるくいかれども
どりのことのせんべのさうりせんとふひくふ海さうるとその人まくぐのふ
うるぬれのおさくめふ海さうぬーのいぐくふりやくさて

○このよ世のすみ
はて爪爪助ハ振爪海の辯ふて脱ふ分ふふ分ふ
爪爪助くこと爪ハ爪助ふり不ふ月狐爪て但者ハ枕元ふ人ふれ
ぬ法師ハ行ふ所ふ技を実行ふ布の大ふ爪ふ鏡と爪のひ
肥後ふく後ハ敵のごく寛ふとて同爪武ふ我海ふ帰ひ
べたのあり天ふ見金せ角金るきんと爪ひーグ化者の狐狸
大ふふ爪ふ爪ふ爪ふ海くふ今宵海ふ帰て爪ふ爪ふれぐふ
狐負爪ふ海ふ爪ふ教論の辯ふ爪ふ者器て爪ふ人ふ爪ふ
あぐ海ふ魂ふ爪ふ爪ふ爪ふ爪ふ爪ふ爪ふ爪ふ爪ふ爪ふ爪ふ

尽せども素毛湯世成弄ぶ人なきものの如
婆ふ若浪なるの色褪たる不緣の脇に食んとを
新んより見るに知て侵とは惜むべきなり知らしめん捷遊ふ視ん人
久
智と自生ふ咲するとを知て面白たるこてん外ざるい美七拙くを
乃とありて徒のの性命成考へるふ尤しよ死るるのく福祿
先生ふ流て生ふ佛成度すべし我ふ命中の布錢和尚とこりの
ゐう我こう呼る七人ふ宝物ふ芳命て世の長人ふ宝ふ授とう
ども不云の者ふ後媚ふこも実授る紙宝あるん汝性長ふ

長て見西あること福祿ふ先生後ふ敬長しのふ知ん契月旅行ふ
郭く其最早旅中に流と弱ること弱れはるとふ乎さん乎さん迎
宝紙ろうふ便ふ出さる序淮も初ろさびけりり裏茶屋
の二階の外で完迎入りて七せ一めんさべとうせのくこられべ
見一碎の爰ふ〻くえわ言酒る鶴の故ふ鶴ふ光て業九郎を
郭一旅住費潤へて中沙道る板橋の宿ん方へこのりもんなり
見ろう爰埔業九郎の二個連ん板橋の宿ろう妹ろん
乃寄して発紙ふあひ宿くの酒落ふそ上引ん流ふあり

文化庵

人心覩機開第二編 全冊 初編式亭三馬作

夢輔譚四編下之巻了

第二
巻の六